

ユニフォームの歴史

An analysis on the history of uniforms

1K05B148

指導教員

主査 寒川恒夫先生

寺林 欧里

副査 石井昌幸先生

【はじめに】

「ユニフォームはなぜスポーツによって全く違うのか」という疑問を私は以前から持っていた。そこで、この疑問を論文テーマにしようと思う。今回取り上げるのは認知度が高く、ユニフォームに特徴があるテニス、ゴルフ、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール、ヒップホップダンス、バスケットボール、野球、柔道での服装についてだ。

【第1章 テニス】

昔は貴族のスポーツであったテニスは、特に女性の社会進出の歴史の影響を強く受けてきた。女性のプレー時の服装の移り変わりにも社会の風潮の変化が歴然と現れており、テニスのユニフォームは、テニスの歴史だけでなく、社会全体の歴史も大きく反映してきたと言える。

【第2章 ゴルフ】

テニスと同様、貴族のスポーツであるゴルフだが、こちらはテニスほど社会の影響は受けてこなかった。論文では1910年代から現在までの服装の変化について取り上げているのだが、どの時代も基本は変わらず大きな変化は見られない。これは、今回取り上げたスポーツの中で最も基本精神が一定かつ明確であり、社会の風潮に左右されない独自の世界を形成しているからだろう。

【第3章 サッカー】

世界で最も多くの人に親しまれているサッカーは、ユニフォーム、ショートパンツ、ストッキング、すねあてといった基本的な服装は昔から変わっていないが、機能面で大きな変化を遂げてきた。現在も続く度重なる改良によって俊敏な動きや、華麗な足さばきなど高度なパフォーマンスが可能になっ

ているのだ。

【第4章 ラグビー】

プレー時の服装には昔からあまり変化が見られないが、観客にはわからない程度のジャージやパンツなどの素材面での変化が大きい。また、日本ではラガーシャツ＝縦縞が一般的だが、ラグビー先進国ではラガーシャツは無地というのが一般的である。

【第5章 アメリカンフットボール】

アメフトのユニフォームは1869年にプリンストン大学が初めて着用した。アメフトといえヘルメットが特徴的だが、初期の頃はヘルメットを着けていなかった為負傷が絶えず、以後徐々に皮革製のものが着用されるようになる。激しいスポーツであるアメフトは、その歴史の中で、安全に行えるように改良されていった。

【第6章 ヒップホップダンス】

ヒップホップダンスは、常にヒップホップという文化の歴史と連動してきた。つまり、ヒップホップの歴史の一部にヒップホップダンスがあり、ダンスの代表的な服装スタイルもヒップホップ文化の影響を大きく受けている。また、そのヒップホップという文化は人種問題に強く結びついており、そのような歴史的背景が影響しているという事を正確に理解していく必要があると思う。

【第7章 バスケットボール】

バスケットは当初、特定の服装は決められておらず、フットボールや陸上などの様々な格好でプレーされていた。マイケルジョーダンの登場により、ナイキとバスケットの関係は濃くなり、バスケットのスタイルが社会やヒップホップ文化に大きな影響を与えた。

【第8章 野球】

客寄せの手段としても大きな役割を担っている野球のユニフォームは、1876年の大リーグ誕生後、見えやすさなどファンからの目線でユニフォームの改良が進んだ。細部の変化は多く見られるが、基本スタイルは同じだ。

【第9章 柔道】

嘉納治五郎によって提案された柔道において、柔道着が誕生したことは柔道の近代的競技スポ

ーツとしての第一歩であったと思われる。最近では、青い柔道着の誕生などテレビ放映などの影響を受けている。

【おわりに】

ユニフォームの歴史は、ルール変遷などそのスポーツの歴史や時代ごとの社会の風潮を強く反映してきた。今後、ユニフォームという視点からスポーツを見ていくとスポーツの新たな側面が見えるかもしれない。